

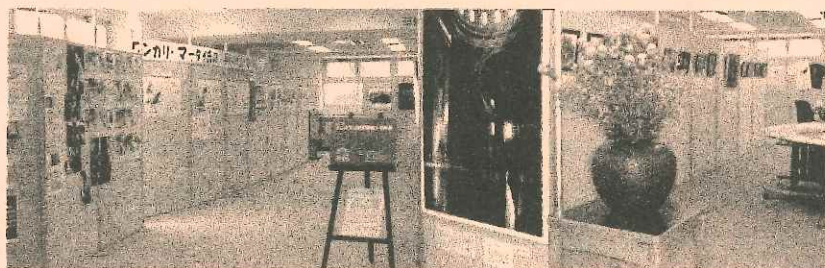


エセナフォーラム2005 6月18日、19日開催



↑エセナおおた前景

大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」区民自主運営委員会は、恒例の「エセナフォーラム」を6月18、19日に行いました。18日は、300年以上の歴史がある落語でジェンダー問題を語る稀有な落語家をお招きし、わかりやすくおもしろかった落語を聞いた後、男性も交えてジェンダーの話し合いができたことは画期的でした。19日は10団体による100分ワークショップを実施し、さまざまな角度からジェンダーの本質にせまる活発な意見交換が行われました。参加団体がそれぞれ工夫をこらした、両日にわたる展示も好評で、エセナフォーラムを彩りました。



↑展示風景

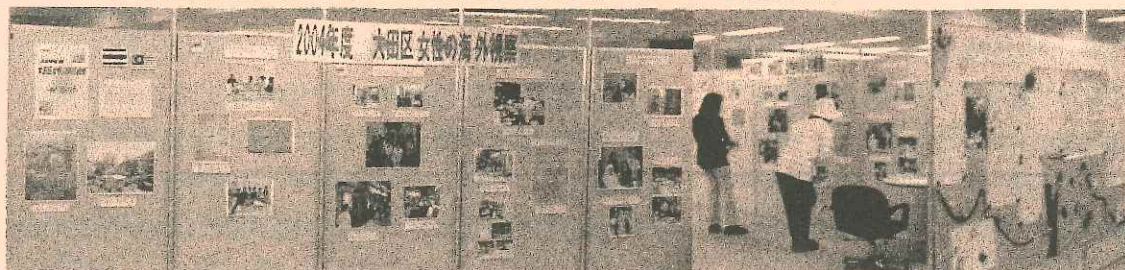
展示(6月18、19日)

☆ワンガリ・マータイ氏の「平和の文化と緑の闘士」
☆世界の女性たち～リプロダクティブ・ヘルス/ライツ～
☆タイ・マレーシア視察報告 ☆指定管理者となつて1年 ☆2004年大田区男女共同参画に関する意識調査・落語の展示・活動紹介 ☆第2回ユネスコ世界遺産写真展 ☆22歳のアメリカ女性の涙でつづいた「日本国憲法」に「男女平等」を

ワークショップ(6月19日)

★パートナーとのコミュニケーション上達の秘訣 ★父の日だから…「おとうさんといっしょ！」 ★忙しいママのための時間・環境コントロール入門 ★「私らしい老い支度」～子育て後、退職後の自分探し～ ★しなやかに堂々と生きる韓国女性 ★男の井戸端会議 ★男女平等と21世紀～みんなで語りあう私たちの憲法～ ★「87%」～乳がんと向き合って～ ★知っ得！ ～ココロの対話、ひとの心理～ ★センター管理を市民の手で～指定管理者の現状と課題～

↓展示風景



↓ワークショップ風景



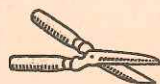
☆エセナフォーラム2005講演&落語☆

「ワカル」と「かわる」の間 はざま

桂 文也師匠



落語は庶民の視点で人間の生活、人間の業を描きます。上方落語の桂文也さんは講演と落語で人権問題に取り組んでいます。関西弁で軽快にジェンダーを語る文也さんの講演に、会場は明るい笑い声でいっぱいになりました。最初に「ジェンダー問題とは人権問題であることを認識してください」と始まった講演をまとめました。



ジェンダーは人権問題

ジェンダーは、雌雄といった生物学上の性(SEX)という分類とは違い、生まれ育っていく過程で、男としてのあり方、女としてのあり方、夫婦のあり方を知らず知らずのうちに取り入れ、本人が気づかないうちに意識下、潜在下に硬く踏み固められてしまっている、男とはこう生きるべき、女とはこうあるべきという固定的、後天的な性の役割のことを言います。

本人の意思や能力・個性とは一切関わりなく、男である・女であるという理由のみで、押し付けられる役割、社会や文化が創りあげたものは、社会や文化・時代・意識が変われば変わっていきます。次々に変遷していくものでしかないものを、まるで普遍的なものとして、男は仕事をするのが当たり前、女は家事と育児をするのに向いているという思い込みや常識を検証することなく呑み込んでしまい、縛られてしまう、そうした社会や文化が創りあげた性差、性別、性差別の問題をジェンダー問題といいます。ジェンダーという意識の束縛から解放され、その呪縛から逃れること、ジェンダーフリーを旨とすることが、男女共同参画社会を旨とするために必要不可欠です。



ジェンダーという束縛からの解放

ジェンダーフリーのフリーは自由、勝手気ままというイメージで語られていますが、フリーという言葉は何々からの解放、束縛からの解放というのが本来の意味です。つまりジェンダーという私たちが縛っている束縛から解放されましょう、というのが、ジェンダーフリーの本当の意味です。男らしさ・女らしさという束縛、これを束縛と思わない人もいます。肯定的に捉える人もいますが、束縛だと捉える人にとっては束縛です。

男性の多くは男らしさを強要させられています。現在、年間の交通事故の死者が8千人になろうとしています。その4倍になる3万人以上の人たちが自殺をしています。多くは中高年の男性です。いろいろな理由があると思います。しかし、死ぬことによって遺された家族がどんなに苦しい思いをするのかを知ってほしいと思います。身内を自死で亡くした人は、自

分を責めます。そうしたことを考えないで、自死してしまう男性は、ひょっとしたら、男らしさの束縛に負けてしまったとも考えられます。借金を背負ってしまった、家族を養えない、男として失格だと自分を責め、男らしさの中で押しつぶされて死んでしまったと言えるのかも知れません。



男らしさ・女らしさという幻想

男らしさ・女らしさという言葉は、誰もがなにげなく悪気なく、日常生活の中で使っています。「男は男らしく生きなアカン、男のくせに泣いたらイカン」と。では、男らしさ・女らしさを明確に、論理的に、科学的に、合理的に説明できるでしょうか。誰も答えられないと思います。そこには、なんの根拠もない男らしさ・女らしさという幻想があります。

「男のくせに泣いたらイカン」と、言われ続けた子どもは困ります。親に聞いても合理的な答えはなく、「男は男らしくに決まってる。女は女らしくに決まってる。昔からそういうもんや!」と、言われます。合理的に判らない子どもは判らないなりに、親の言動から類推をし、探ろうとします。

子どもが外で喧嘩して泣いて帰ってきたとします。「どないしたん、泣いて帰ってきて。喧嘩して負けた? 情けない奴やな。男が負けて泣いて帰ってどないすんや! もう一回、勝つまでやり返して来い!」と、言われます。そう言われた子どもは、なるほど「男らしさとは、暴力によって相手を屈服させること」と、思い込んでしまいます。そうやって育てられた子どもは負けることができません。負けを認めることができなくなります。力を持てば、その力で何者かを支配し、屈服させることが男らしさであると思込みます。

女の子も、「女らしくなさい」と言われます。20~30年前まで、「お父さん、私、学校に行きたい。4年制の大学に行きたい!」と言うと、「女は勉強せんでもええ。どうしても行きたいんやったら、地元の短大でええ」と、言われました。勉強する能力も、チャンスもあるにも拘わらず、地元の短大でいいと、自分の道を閉ざされた人たちがいました。それが大きな心の傷になっている人がいるのではないのでしょうか。



ジェンダーは家庭でも職場でも

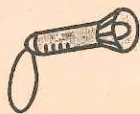
ジェンダーの問題は、家庭の中だけではなく、そうした意識があらゆる人間の生活の場に出てしまうことで、大きな問題になります。職場であれば、「女は男たちの補助的な仕事をすべきであり、結婚を優先させ、仕事よりも家庭を優先させ、子

どもを生まなければならない。子どもを生んだら家庭に入らなければならない」という意識を持った上司がいれば、「働き続けたい。結婚はいつになるか判らない。私は仕事で成果をあげたい。認められたい」と思っている女性たちとぶつかりあうのは当然です。仕事をし続けたいという女性たちが、上司の心の中にあるジェンダーという意識によって妨げられることとなります。



アンケートの質問にもジェンダーが

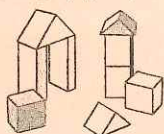
ある新聞に、東京と大阪で働く未婚女性の意識調査というアンケートの結果が載っていました。女性に対して、貴女は結婚しても仕事を続けますか？ 続けたい 73%、続けたくない 22%だったそうです。1984年に同じような調査をした時の結果と比べるとほぼ逆になった、という記事でした。問題はこの数字ではなく、アンケートの質問です。貴女は仕事を続けますか？という質問を男性にすることはありません。なぜ女性だけがこういう質問をされるのでしょうか？ 前提に、女性は結婚したら、仕事を続けるか続けないかという選択をしなければならないという意識があるからです。結婚をしようしまいと、子どもを生もうと生むまいと、仕事を続けたいという意思を貫くことができない社会がここに 있습니다。そのことによって、不利益を被る人たちがいれば、その不利益を被らないようにするのが、政治家や行政の仕事であり、私たちの意識の持ち方です。それが本来の平等という意識です。



家庭での意識のズレはどこから

社会の中で最も小さなユニットは家庭です。その家庭の中には大きな意識のズレがあります。男たちの多くは「男は常に女たちよりも偉く、また偉くなければならぬ、だから男は女を支配してもいい」と、思い込んでいます。多分、男性は意識していません。潜在下にある男らしさという思い込み、ジェンダーがそういう行動、言動をとらせます。常に自分が中心となり、命令し、指示しなければならないという思いは、多分恋愛時代からだったと思います。

男性は、「お前はオレの女だ」と言います。束縛することが愛情だと勘違いし、女性も束縛を愛情だと勘違いします。そして男性は、「オレはお前を必ず幸せにしてやる」、「服を買ってやる」、「旅行に連れて行ってやる」、「旨いものを食わせてやる」と言います。男性は常に強者として、弱者である女性たちを幸せにしてやる義務があると思ひ込んでいます。これは支配でなくてなんでしょう。



結婚は二人でつくっていく関係

結婚は一人の人間が一人の人間を幸せにしてやるものではありません。二人でつくっていく人間関係です。ところが男性にとって結婚はゴールです。ゴールをした男性は、そこから人間関係をつくる努力を一切しなくなります。ですから、結

婚後の男性の言動は、結婚前と比べて随分と変わります。

結婚後のコミュニケーションの方法は事務連絡と命令だけになります。「オレはいついつ出張だからな」、「あれやっつけ」、「これやっつけ」、「分かっているな」と。男性はこれだけでこと足りると思ひ込んでいます。多くの女性が、家庭の中でそうした関係を改善しようと努力されていることは良く聞きます。ところが、男性に聞いてみると、何も考えていません。

暴力というのは殴る、蹴るだけではありません。お前は馬鹿だと罵る、大きな声で相手を威嚇することも立派な暴力です。お金を妻に渡さないのも、行動を監視するのも暴力です。

女性は、なぜ NO と言えないのでしょうか。なぜイヤと言えないのでしょうか。なぜ、妻は自分の行動を自分で管理することすらできないような環境を家の中で作ってしまったのでしょうか。ひょっとしたら、なんらかの力関係があるのではないのでしょうか。経済的負い目、間違っただけの思い込み、支配関係があるとしか思えません。

そうした目にみえない暴力を何度も受け続けると、妻は諦めます。「もういいわ。諦めよう。我慢しよう。私が諦めたらそれで丸くおさまる。波風がたたない」と。妻の沈黙は最高の最大の抵抗です。しかし、それは夫にとって了解としか理解されていません。黙ること、諦めること、我慢することでは何の改善にも繋がりません。家庭の中でも、社会においても、職場においても、「それは違う」、「間違っている」、「イヤだ」、「NOだ」と、言い続けなければ変わりません。



自分と未来を変える努力を

自立には大きな4つの要素があります。経済的自立、社会的自立、精神的自立、生活者自立です。日本の多くの女性は未だに経済的自立を成しえることができないでいます。男性はどうでしょうか。ほとんどは経済的自立を手に入れています。精神的自立はしていません。衣食住、社会との関わり、近所との付き合い、何もできない、常に何者かに依存しなければ生きていけません。

男性は何十年も仕事をしてきたので、社会性があると思ひ込んでいます。しかし、男性が言う社会は、人間性は一切必要とされていない、上位下達の会社のことです。会社を社会だと勘違いした男性は、本来の社会に戻った時に、その社会に適応できません。困ったことに、2007年には、勘違いした男性が大量に地域社会に戻ってきます。

人間は過去と他人を変えることはできません。しかし、自分と未来だけは変えることができます。自分がどう気づき、どう変わるかです。他人や過去、誰がこう言った、ああ言った、昔はこうだったではなく、今の自分の言葉で自分自身を語り、自分がどう一歩を踏み出すか。そのことによって、自分自身や自分の周り、家族、地域、そして国が大きく変わるかもしれない、ということを感じてください。もう一度自分と向き合って考えていただけたらと思います。

(まとめ 田中きょうこ)

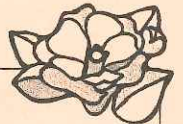
お流 男の生き方セミナー ～力を抜いて生きようよ～

講師：吉田清彦さん（家事としての男の手料理研究家・フリーライター）

10/15(土) 13:30～16:00	「男らしさ」から「自分らしさ」へ① ～会社人間から生活人間になろう～
10/29(土) 13:30～16:00	「男らしさ」から「自分らしさ」へ② ～コミュニケーション上手になろう～
11/12(土) 13:30～16:30	家事としての料理の達人になろう①～洋食編～ ～本式ビーフカレーとハンバーグをつくろう～
11/19(土) 13:30～16:30	家事としての料理の達人になろう②～和食編～ ～プロ味の肉じゃがとあじのタタキをつくろう～

あらゆる価値観が揺らいでいく中で、男性も変わらざるを得ない状況にあります。会社中心のこれまでの生き方を振り返り、地域や家庭での絆のリセットをはかりましょう。このセミナーで人生における「力の抜き方」を学びましょう。申込締切 10/5 必着

- ・調理実習費 2000 円
- ・往復はがき、FAX、e-mail で。
- ・講座名、名前、住所、年代、電話番号を明記。



パネル展示

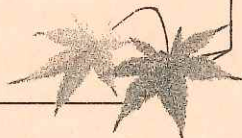
世界は変わった！？

世界女性会議(北京会議)から 10 年・・・

男女平等の推進と、あらゆる分野への女性の参加等を盛り込んだ「北京宣言」。貧困・教育・健康・女性に対する暴力・経済・人権等の目標と行動を提示した、第 4 回世界女性会議以降の世界の状況を展示します。

10 月 13 日～11 月 17 日

2F 談話コーナー



セミナー

こころとカラダの元気を引き出すポティワーク

歩いたり、体を揺らすような簡単な動きをすることで疲れた心と体をときほぐしましょう。

11 月 17 日・11 月 24 日・12 月 1 日

毎週木曜日 19:00～20:30

申込：往復はがき、電話、FAX、e-mail で。講座名・住所・名前・電話番号・年代を書いて、10 月 31 日必着。

保育あり：1 歳以上の未就学児 15 名。申込時に子どもの名前、生年月日を明記。

びよたまクラブのお知らせ

☆親子で Be Happy!

毎月第 2・第 4 木曜日 10:30～12:00

対象：親と乳幼児

☆おもちゃであそぼ!

毎月第 4 日曜日 13:30～16:00

対象：子どもから大人まで

☆おはなしの会

毎週水曜日 15:30～

対象：子どもから大人まで



◇エセナおおたトークサロン第 3 回◇

ようこそ わたし語りカフェへ

子どものこと、パートナーのこと、親のこと、仕事のこと・・・土曜の午後、お茶を飲みながら、お話しする場です。どなたでも当日おいでください。

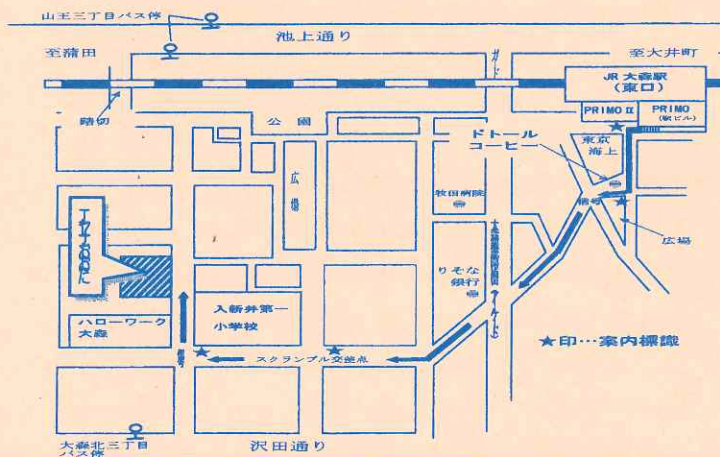
日程：11 月 12 日(土) 13:30～15:30

会場：馬込文化センター第 2 集会室

今後の予定

2007/1/7 六郷文化センター

2007/3/4 雪谷文化センター



大田区立男女平等推進センター

エセナおおた

区民自主運営委員会

〒143-0016

東京都大田区大森北 4-16-4

電話 03-3766-6587

03-3766-4586

FAX 03-5764-0604

e-mail esenaota@yahoo.co.jp

HP URL <http://www.esenaota.jp/>

